

プロセスイノベーション

<着眼点>①

新製品課題発見
立上げプロジェクト

<概要>

新製品に対して立上げまで課題を見落とさず、かつ確実に解決して市場や顧客へ投入するため、VMを用いて関係部門でミーティングを行う

課題発見のヒント

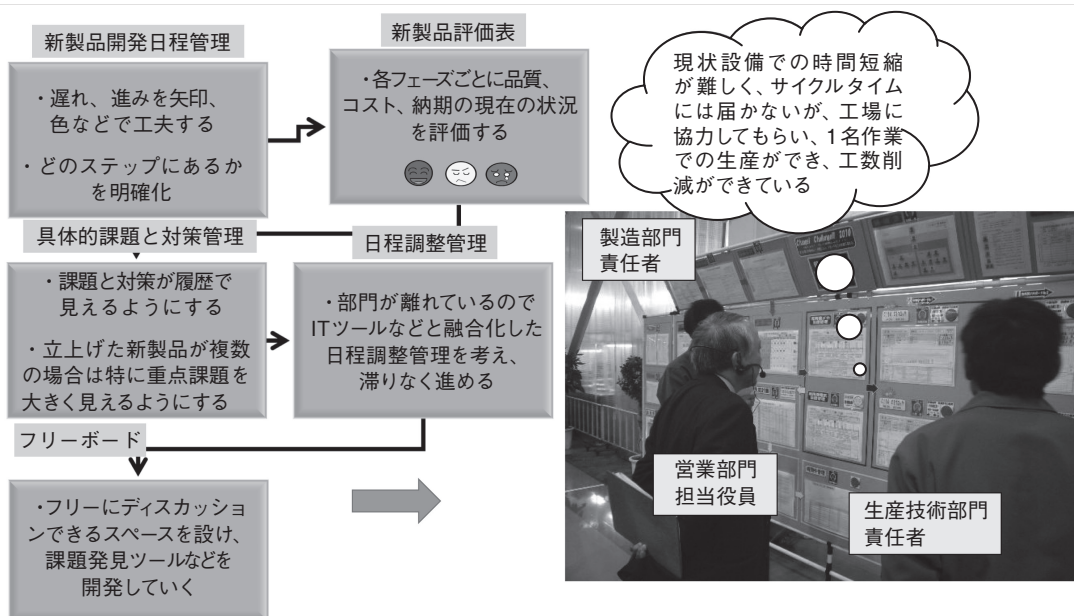
開発部門は付加価値の高い製品をいかに早く開発し、市場や顧客へ投入していくことが求められる。しかし、顧客のニーズや課題に対して早期に対応できない、営業と他部門の連携が悪いために、市場や顧客情報を関係部門へ迅速に伝達できない、購買部門は本当の材料原価を出さない、生産技術部門があるにもかかわらず新製品立上げに関わらないなど、組織間の壁に阻まれてしまう。結果として、品質、コスト、納期の課題が解決されないまま、市場投入、顧客への納入が行われ、その後も課題解決に迫られるため、新たなテーマにもきちんと取り組めない悪循環に陥っている企業が多い。これらを解消するためには、プロジェクトで重要な課題をVMボードによって「見える」ようにしてその場で関係者が集まってディスカッションすることがイノベーションの第一歩となる。

改革の進め方

- 関係者が集まる場所でのVMボードの設置とミーティングサイクルの決定
 - 主に開発部門がある場所や隣接するフロアなどにVMボードを設置する
 - 関係者が集まってミーティングを行うサイクルを立上げまでの4～5フェーズなどで設ける
- VMボードの課題が浮き上がる道具立ての選定とポイント
 - 受注～量産にいたるまでの大日程計画：進捗面とその段階での製品状況の課題を知らせる
 - 現段階での新製品の評価：品質、コスト、納期で何が課題であるかを判定
 - 具体的課題の明確化と対策：②で出た課題に対して対策をいつまでに行うかの状況が見えるテーマが多い時には、特に重要なことについてはよりクローズアップして見えるようにする
 - 関係部門が多い場合は日程調整が大変なのでそれを個別に管理する日程調整管理表を作成
 - 今後のプロジェクトに活かすための原因分析ツールなどを自社で開発する

事例

VMボードの管理業務の留意点とミーティング風景



(五十嵐 論)